

統治の本質は悪

人類の歴史で統治（政治）の本質は悪である。

人類の歴史とは、まず「自分たちを食べさせてくれ」と集まってく

副島隆彦・時代を見通す力

ごとの権力者や企業経営者のような存在に行き当たると、

人類の歴史はきれいでない。巨大な悪が人間の群れを支配している。マキャベリが「政治の本質は悪」と見抜いたとおりだ。

だから戦国大名という人たちは、いまで言えば広域暴力団の大親分のような人たちだったはずである。

戦国武将たちは、なぜあのようなお城を造ったのか。それはすぐそばの街道で通行税を取るためだ。そして

密貿易をやっただろう。税金と貿易（商業・大企業）からしか大きな利益は生まれない。百姓（零細中小企業・サラリーマン）をいく

らいじめても年貢はそんなに取れるものではない。大きな利益がなければ人間の群れはいきてゆけない。

鎌倉・室町時代に中国に留学した秀才（お坊様）は体制保守の儒学（朱子学）を賢明に学んだ。禅宗の高僧達は、大名たちに召し抱えられて、裏で密貿易の立派

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2010年3月29日(月) NO 108
 地域から明るい未来を作ろう

な文章を作成したものである。幕末の倒幕軍

（薩長土肥）はいずれも巨額の利益を出していたのである。そうでなければ、島津の分家である篤姫が京都の近衛家の養女になり、将軍家定の正室になれるはずがない。この時どれほどのお金が動いたか想像してみればよい。

加賀藩の銭屋五兵衛も同じ運命。すべては金なので。お金がなければ、たくさん

大阪の言葉で「おおきに」という言葉があります。「おおきに」とは「大いに恩義を着る」という意味であって、短く省略した表現でしょう。

「すみ（い）ません」もそうです。大変な恩義を受けて、このままでは「済ますこと

とができない」「どうやってお返ししたらいいか」ということです。これが中国

の人を養うことが出来ない軍備を整えることが出来ない。金と政治（軍事）話抜きはきれいな事です。ウソの歴史観を持つものではない。こうして見てくると、「政治と金」問題で野党の、民主・小沢氏追及は大衆を欺く枝葉末節に見えてくるのです。そもそも自分たちは同じか、それ以上でなかったのか。

究極の公共事業

「戦争」という「政治」の勝敗は「資金力」と「軍事力」で決まる。どれだけ強

人です。欧米人は英語の先生をしていますから友人になる機会が少ないが、中国の若者達は歯を食いしばっ

い闘う意志があっても、金と軍備がなければ、戦争は起これないし、起これない。「属国の優等生」として今日に至る我が国は、外国と戦争をする事で、国内の経済を活性化し、戦争をしな

いがかかりを付けた国を支援し、もっともらしく他国に軍隊を送った日本です。そして、「義」とは何かを一生懸命聞いてみて下さい。

恩義を感じる、受けた恩義を返すためだったら自分は死んでもいいという思想のようです。私たちも共感でき、中国人もわかるのです。

義とは何か

て肉体労働をし留学している人が多い。友だちになつてあげればいいでしょう。

心は「義」でもなく正義でもなく、善し悪しは別にし、巨大な「悪」です。しかし、政治の中

